

## 平成17年第1回(3月)定例会 一般質問通告表

	質 問 事 項	質 問 者
1	<p>1 施政方針について</p> <p>(1) 市長の考えるあるべき行政の姿とは</p> <p>(2) 事業予算と矛盾が見うけられるがどのように解すれば良いか</p> <p>2 附属機関への諮問について</p> <p>(1) 地域審議会への諮問について</p> <p style="margin-left: 20px;">・ 平成17年2月3日付産経新聞の木曜コラムの内容は事実か否か</p> <p>(2) 総合計画審議会への諮問について</p> <p>(3) 学校教育環境整備検討委員会への諮問について</p> <p>3 行財政改革について</p> <p>(1) 機構改革について</p> <p>(2) 行政財産の整理について</p> <p>(3) 統廃合・合理化計画について</p> <p>(4) 予算編成のあり方について</p> <p>(5) 財政運営の長期見通しについて</p> <p>4 国営かんばいについて</p> <p>(1) 計画変更後の事業について</p> <p>(2) 佐渡市の負担について</p> <p>(3) 受益者の負担について</p>	金光英晴
2	<p>施政方針を質す</p> <p>「行政改革」について</p> <p>高野市政は本気で「行革」に取り組むのか。昨今、あらゆる階層の意見として高野市政の最大の課題は「行政改革」に真剣に取り組み、職員の減量改革を断行することにより機構を小さくすることが佐渡市の財政の安定化、確保に繋がるという。所見を伺う</p> <p>職員定数は事務量に比例するものであるが、現在の事務量と職員定数の比較をどのように検討し分析しているか</p> <p>現在の人員に合わせて仕事で作られている傾向にないか</p> <p>あるべき行政事務量を理論的に決定することは不可能であるが、まず職員定数を圧縮することが事務並びに機構・組織の簡素・合理化に繋がるもので、最も実効のある行革だと考えるが行政組織の改革について伺う(組織系列のフローチャート図も示してほしい)</p>	大澤祐治郎
3	<p>1 平成17年度予算について</p> <p>(1) 平成17年度の景気見通しについて</p> <p>(2) 平成17年度の観光客の目標と観光行政について</p> <p>(3) 景気対策を考慮した市の事業の発注について</p> <p>2 合併協で約束された重要施策について</p> <p>(1) 加茂湖埋立てについて</p> <p>(2) 国道バイパス及び県道横宿線の道路改良について</p> <p>(3) 中心市街地活性化事業と北埠頭再開発について</p>	牧野秀夫

	質 問 事 項	質 問 者
3	<p>3 佐渡空港拡張計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の見通しについて、また対策はどうか</li> </ul> <p>4 除雪対策等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除雪対策と車両の効率的運用と市民サービスについて</li> </ul>	牧野秀夫
4	<p>1 観光施設について</p> <p>(1) 街並整備事業の周辺整備について</p> <p>旧相川拘置所について</p> <p>街並再生検討委員会の目的について</p> <p>(2) 佐渡会館の修復と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐渡会館の老朽化、周辺整備について</li> </ul> <p>2 社会体育について</p> <p>(1) 2巡目国体について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 準備委員会の立上げについて</li> </ul> <p>(2) 佐渡体育協会のあり方について</p> <p>体育協会の仕事とは</p> <p>体育協会の予算の分配の方法は</p> <p>(3) 体育館建設について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国仲地区、南部地区での建設と聞くが、早期建設を</li> </ul>	山本伊之助
5	<p>1 市財政について</p> <p>市財政の現況と今後の見通しについて</p> <p>市財政の現状を問う</p> <p>今後の市財政をどのように予測しているか、明らかにされたい</p> <p>2 新市建設計画について</p> <p>建設計画の実施状況と今後について</p> <p>建設計画の実施の現状を問う</p> <p>今後の計画実施の見通しを明らかにされたい</p> <p>3 高齢者福祉について</p> <p>(1) 高齢者介護について</p> <p>高齢者の介護施設入所待機者の解消施策を問う</p> <p>高齢者の在宅介護への施策の現状と今後の施策充実に向けた対策を問う</p> <p>(2) 介護保険制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護保険制度の見直しの内容と介護利用者への影響をどのように見通しているか</li> </ul> <p>4 地域審議会について</p> <p>地域審議会のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域審議会は、住民の意向が反映する自治的機能をもたせる必要があると考えるがどうか、見解を問う</li> </ul> <p>5 入札について</p> <p>入札実施の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入札の実施方法の現状と今後の改善策を問う</li> </ul>	小杉邦男

	質 問 事 項	質 問 者
5	<p>6 雇用状況について 島内雇用状況について 島内の雇用の現状を問う 市の雇用対策を明らかにされたい</p> <p>7 漁協合併について 全島漁協の合併について ・ 全島漁協合併の推進経過と現況を問う</p>	小杉 邦男
6	<p>市政運営について</p> <p>(1) 環境政策について トキ野生放鳥、ごみ処理、一次産業等に関連した環境政策の進め方</p> <p>(2) 行政改革について 住民自治の原点である地域自治組織と市行政 機構改革と公共サービス</p> <p>(3) 福祉政策について ・ 地域福祉の具体的進め方</p> <p>(4) 農業政策について ・ 市の基本計画が今年度予算上どのような施策となって反映されているか</p>	小田 純一
7	<p>1 国の新年度予算（所得減の中での増税・負担増路線）と本市当初予算について 平成17年度当初予算と諸問題について 市民生活関連への対応について 福祉・教育・暮らしの考え方について 介護保険5年目の制度見直しにあたっての考え方について 国民健康保険税の考え方について 障害者自立支援給付法案の考え方について 「三位一体の改革」の考え方について</p> <p>2 指定管理者制度について 諸問題について どのように進められているのか 移行されたとしたら、地域住民へのサービスはどうなるのか 今までの組織・職員はどうなるのか 条例化にあたっての対応について</p>	中村 良夫
8	<p>1 トキ放鳥計画と自然、環境保護活動への疑問点から</p> <p>(1) 放鳥計画に焦りがないか ・ トキ放鳥計画がトップダウンで現場での討議が不十分。住民意識の盛り上がり、一部の地区だけである</p> <p>(2) 「新潟緑の百年物語」は、トキも棲む豊かな森を造るべき ・ 現在の植栽事業は見かけの緑化運動である。トキの営巣林造りや杉花粉対策等の植栽計画が必要ではないか</p> <p>(3) トキから学ぶ自然保護対策を進めるべき</p>	村川 四郎

	質 問 事 項	質 問 者
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トキの二の舞にならないために、他の佐渡固有種（動植物）の保護対策は行っているのか</li> <li>(4) コシヒカリBL米の導入は <ul style="list-style-type: none"> <li>全県（佐渡）一斉導入の理由</li> <li>BL米は遺伝子組み替えではないのか</li> <li>農家と消費者の説明と理解は得たのか</li> </ul> </li> <li>2 医療の充実にに関して <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域医療計画の策定は（地域医療ネットワークは） <ul style="list-style-type: none"> <li>地域中核病院計画と、島内各病院間の機能分担及び病診の連携計画は</li> <li>2市立病院の予算対応と将来構想</li> <li>佐渡の医師充足率と医師確保計画は</li> <li>佐渡市の理想的地域医療計画は</li> </ul> </li> <li>(2) 健康診断の充実対策は <ul style="list-style-type: none"> <li>基本検診の受診率向上への対策は</li> <li>マンモグラフィー、PSA診断の対象者と検診期間等は</li> <li>女性検診者への配慮は</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>3 人事の適材適所について <ul style="list-style-type: none"> <li>能力主義・自己申告制度・業績考課制度・支所機能充実</li> <li>支所間人事交流・勸奨退職制度</li> <li>管理職の自己評価と成果主義の適用</li> <li>「一般職任期付き職員」制度の導入</li> <li>支所の個性（地域特性）を生かす組織&amp;人事</li> </ul> </li> </ul>	村川 四郎
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成17年度施政方針について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境問題について <ul style="list-style-type: none"> <li>「環境保全と再生」の意味を問う</li> <li>環境基本条例の制定を行い、その上で循環型社会の構築を目指すのが筋道と考えるがいかがか</li> </ul> </li> <li>(2) トキの野生放鳥について <ul style="list-style-type: none"> <li>「人とトキとの共生」の意義について説明願いたい</li> <li>「しまづくり」から「まちづくり」への変更の理由を問う</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2 人件費縮減策について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 職員給与のあり方について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旧10か市町村の格差是正と併行して縮減に向けた見直し策があるか</li> </ul> </li> <li>(2) 補助金の見直しについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人件費の補助を含むものはないか。補助金の代わりに、職員の出向が出来ないか</li> </ul> </li> <li>(3) 専門職への配転について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員研修等によって、専門職への転用を図るべきではないか</li> </ul> </li> <li>(4) 窓口の合理化について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イン트라ネット整備によって、職員数は削減出来るのか</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	田中 文夫

	質 問 事 項	質 問 者
9	<p>3 精神障害者福祉について</p> <p>(1) 現状と問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者数、サービス利用数、自助グループや家族会・支援団体の状況について問う</li> </ul> <p>(2) 相談・指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市保健所設置の可能性と有効性について、またP S W（精神保健福祉相談員）等専門職配置の必要性はないか</li> </ul> <p>(3) 復帰施設の拡充について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループホームや生活支援センターが必要ではないか</li> </ul>	田 中 文 夫
10	<p>1 観光振興について</p> <p>(1) 観光資源開発室について</p> <p>度重なる災害により、佐渡観光も70万人を割る観光客数の今日である。単なる風評被害ばかりでなく、抜本的に見直しが必要と考えるが観光資源開発室の具体的内容は</p> <p>相川地区、二見地区に残る古民家を核にした観光ルートの開発計画について</p> <p>2 商工業の振興について</p> <p>(1) 中心市街地活性化事業について</p> <p>両津地区市街地再開発事業の基本設計とT M O計画の策定事業等の実施とあるが、具体的説明を</p> <p>実施後の佐渡市及び支所が補助金以外に支援することは何か</p> <p>(2) オアシスステーション整備事業について</p> <p>真野地区商店街活性化を目的にした、ポケットパーク・道路・駐車場整備とあるが、この事業の目指すところは</p> <p>整備後の佐渡市及び支所が行う宣伝及び誘客方法等の支援策は</p> <p>3 17年度予算について</p> <p>(1) イベント予算について</p> <p>佐渡市が平成17年度補助、または負担し、なおかつ合併以前に行っていた商工及び観光事業（イベント）のうち、平成16年度に比較し、補助金及び負担金が100万円以上、また2倍以上に上った事業は何か</p> <p>それらの予算の増えた理由は何か</p> <p>それらの事業の総予算における佐渡市の補助率及び負担率は</p> <p>それらの事業の予算内訳を作成したのはどこの機関か</p> <p>予算の算出方法はまちまちであり、地域によって偏りがある。そこで、佐渡の市民に対して平等であるために、本庁が支所に示した精査の基準は</p> <p>それらの事業の予算を認める上での査定方法と査定方法を作る責任者は</p>	廣 瀬 擁
11	<p>1 平成16年の災害、その後の対応について</p> <p>(1) 佐渡経済の失速回避策について</p>	大 桃 一 浩

	質 問 事 項	質 問 者
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の7・13水害、8・20台風、そして新潟県中越地震は震源地の中越地区だけでなく、新潟県全体に大きな被害をもたらした。今後もその被害は経済の失速という形で拡大する恐れがあり佐渡経済への影響としても、景気縮小、失業者の増加等懸念もある。 佐渡市としては有効かつ、迅速にそれらの影響から佐渡経済を失速させることのない、施策、対応を講ずる必要があると考えるが、その手法を問う</li> <li>(2) 危機管理体制の構築と共助、公助のあり方について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 度重なる災害は市の危機管理体制そのものが試された面があり、その対応には改善すべき点が多々ある。大きな犠牲の上にもたらされた教訓は、何であったかを問う また、危機管理には、事前の状況予測、初動の対応、平時の準備、が成否の鍵を握るといわれている。今回の災害を含め、市、行政が被災地、被災者の方々に行うことのできる援助には限りがある。 住民の共助と公助体制の構築こそ、災害時の一番の手立てであると考えるが、その手法、対応策を問う</li> </ul> </li> <li>(3) 災害時の情報伝達方法について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7・13水害、新潟県中越地震後の教訓として情報の伝達方法の検討がある。現在、防災無線体制の構築が県、市、各自治体間で早急に進められているが、昨年の災害後、被災者避難所での一番の情報伝達、情報収集に適した手段は地域コミュニティラジオ放送であった事は報道等によりあきらかになった。 現在、佐渡市はC N Sの拡充を進め、有線での対応は、他自治体より進んでいるが、行政間用の防災無線の設置と平行して一般向けのコミュニティラジオ放送の体制整備をする必要があると考えるが所見を問う</li> </ul> </li> <li>(4) 災害復興基金について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 復興基金は災害救助法や生活再建支援法などを補完し、実態に即した生活再建や産業の早期復興に活用されるものである。 12月県議会での知事の答弁は、「市町村が実施する復興事業を補完し、現行の制度の隙間となっている分野について機動的・弾力的にきめ細やかな対応を行う」と言っている。これは、有形、無形の事業に対しての支援を意味するものであり、大きな被害が発生した佐渡市としても県に働きかけをする必要がある。市長の見解を問う</li> </ul> </li> </ul> <p>2 行政経営改革と職員定数管理について</p> <p>(1) 行政経営改革、職員の適正配置について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これからの市の行政経営に当たっては、佐渡市の持っている潜在能力を引き出し、厳しい地域間競争に勝ちぬく佐渡市を築くため、多くの市民の御意見を伺いながら、行財政運営の総合力強化をする必要がある。 そのために、市の役割を選択と集中の観点から抜本的に見直し、官民協働の促進や民間活力の積極的な導入を図り、組織や事業の徹底したスリム化・効率化や機能発揮の仕組みの整備を推進するなどの必要があ</li> </ul>	大 桃 一 浩

	質 問 事 項	質 問 者
11	<p>る。</p> <p>現在の職員配置がそれらに適した配置となっているのか。平成17年度に予定されている、人事、機構改革が新生佐渡市1年後、高野市政としての完結か。所見を問う</p> <p>(2) 職員定数管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>政府与党の行財政改革推進会議は、平成17年度から5年間で10%以上の削減を政府に申し入れ、政府からも前向きな回答が既に示されており、これにより国家公務員の定数は年間削減率2%、給与の5%以上とするものになっている。新潟県においても県職員数と人件費総額、4年間で2割の削減となっている。</li> </ul> <p>それらに対し佐渡市においての今回の人員削減は、合併当初の約束と大きくかけ離れたものであるし、それにもまして、合併後の人件費のあり方は、住民感情からも納得しかねるものである。市長の見解を問う</p> <p>(3) 人事評価システムの導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新潟県でも導入が予定される能力主義給与体系とその基盤となる職員の業績を評価する人事評価システムの導入は、行政を担う多様で質の高い人材の確保・育成し、市民の視点に立った上質な行政サービスを効率的に提供するとの観点から佐渡市も導入すべきと考える。</li> </ul> <p>このことは、職員の意欲や能力を最大限に引き出し、成果を上げた者が今まで以上に報われる、メリハリのある人事管理制度と連動する。国の公務員制度改革に先立ち（県は17年度から）管理職を対象に試行的に導入する必要があると考えるが市長の考えを問う</p> <p>3 伝統文化研究機関の設立と世界文化遺産登録について</p> <p>基金の創設について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年の選挙公約、今年の施政方針でも市長が述べているとおり、佐渡市には、多くの保存すべき有形無形の文化財が存在する。特に世界文化遺産登録、それらの保存、活用には、多くの財源が必要である。市長のもう一つの公約、PFIを活用した市政運営にこの点を利用してはいかがか。民間活力による施策への転換期と考えるが、市長の考えを問う</li> </ul>	大 桃 一 浩
12	<p>1 産業の振興</p> <p>(1) 佐渡の経済が疲弊している。観光産業などのてこ入れと合わせて地道に産業の支援をすべきと思うが</p> <p>(2) 統計ではUターン者が増えている。定年帰農を進めるとともに、U・Iターン者向けに住居と農地の斡旋や就農の指導を進めるべきと思うが</p> <p>(3) 農地の荒廃の防止と担い手の確保のために企業の農業経営の参加を考えたらどうか</p> <p>(4) 6次産業の開発へ向けて担当者を決めて積極的に取り組む必要があると思うがいかがか</p> <p>2 環境の整備</p> <p>(1) 生ごみの資源化を進めていく必要があると思うが、どう考えているか</p>	若 林 直 樹

	質 問 事 項	質 問 者
12	<p>(2) ごみの分別化、リサイクル化を高める考えはあるか</p> <p>(3) トキの放鳥に関し地域住民や農家への説明をどのようにして進めていくのか。農薬の空中散布は今後どのように考えているのか</p>	若林直樹
13	<p>1 指定管理者制度について</p> <p>指定管理者制度に関する条例の提案はいつになるのか</p> <p>指定管理者制度に移行該当施設の数</p> <p>現在、管理委託をしている施設はいくつあるのか</p> <p>保育所も指定管理制度の対象施設になるのか</p> <p>社会福祉協議会が現在委託管理している施設も「指定管理者」を決定することになるのか</p> <p>指定の期間はどのようになるのか</p> <p>道路の管理はどのようになるのか</p> <p>公募によらず「指定管理者」を指定することができるのか。その他「指定管理者制度」全般について答弁を求める</p> <p>2 入札制度について</p> <p>(1) 入札参加資格について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元業者についての定義、例えば島外事業者で佐渡市に営業所を有している事業者は、地元業者として扱うのか</li> </ul> <p>(2) 分離発注について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分離発注の基本的な考え方を聞かせていただきたい</li> </ul> <p>3 ごみ・し尿収集委託と関連処理施設について</p> <p>(1) ごみ収集について</p> <p>ごみ収集を委託している事業者は何社、車両は何台で業者ごとの収集量</p> <p>焼却施設ごとの処理量と運営経費、トン当たりいくらになるのか</p> <p>収集委託費の算出方法は統一した基準で算出した予算になっているのか</p> <p>(2) し尿の収集委託について</p> <p>委託収集業者は何社、10リットル当たりの収集委託料はいくらか</p> <p>市と委託契約のないまま収集業務を行っている事業者がいると聞くが、なぜなのか。このことに対する市の責任</p> <p>4 学校教育について</p> <p>学校施設と環境問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新築された赤泊小学校と今後の学校施設と環境教育</li> </ul> <p>5 当初予算について</p> <p>予算編成の基本方針について</p> <p>予算編成の支所間の調整はどこが行ったのか</p> <p>職員定数と人件費など、合併協議資料と、16・17年度を関連させ質問する</p>	祝 優 雄
14	<p>1 住民訴訟業務委託料と平成15年(行ウ)第6号事件について</p> <p>「両津市が佐渡一島一市の合併の可否を住民投票に付するための条例」</p>	加賀博昭

	質 問 事 項	質 問 者
14	<p>執行上の裁量権について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被告側証拠の乙第14号、第15号証による主張と裁判所が示した判断について</li> </ul> <p>2 施政方針の「環境基本条例」の精神と予算編成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「循環型社会の構築」と矛盾する予算措置について</li> <li>灰溶融施設整備に関する予算措置について</li> <li>し尿収集をめぐる放置できない緊急課題について</li> </ul> <p>3 「特区・離島振興室」設置と問題点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「特区」は国の支援を頼りに行うものではない</li> <li>「特区」事業とは自らの知恵で国の方針を変更させる地方の実力を示す事業計画である</li> <li>佐渡の特養待機者478人（ダブリなし）の救済について</li> </ul> <p>4 佐渡の活性化と投資計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各課の縄張りを外す総合政策構想の構築こそ重要</li> <li>総務費 8 目支所費、14 節土地賃借料のうち、森林公園予定用地約 3 ヘクタールの有効利用について</li> <li>用地を民間と共同利用する知恵ある構想の展開の実施</li> <li>全国の新進彫刻作家の作品コンペで一気に「彫刻の森」を形成する。</li> <li>地代は解消し、墓碑塔の建立で全国に売り出すことで、全国的にまれな「墓碑塔と彫刻の森公園」を実現する</li> </ul>	加賀博昭
15	<p>1 少子社会について</p> <p>対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>結婚・出産する、しないの自由に対する市長の考えを伺う（世田谷では適齢期20～40歳代で結婚しない女性が半数以上になっている）</li> <li>片働き夫婦・母子家庭に対する支援について（現行の保育制度は共働き偏重である）〔保育園児一人に対する税金による補助金は100～130万円〕</li> <li>乳幼児医療費について</li> <li>児童手当について</li> <li>学童保育について</li> <li>社会体制について（育児休業・休暇など社会で子育てという意識）</li> <li>次世代育成基金の創設を提案する（公平性のため例えば30歳以上の大人全員が負担する仕組みを）〔高齢者扶養の社会化は進んだが子育ては私的負担に任せたまは不公平〕</li> </ul> <p>2 教育について</p> <p>(1) 学力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本、新潟県及び佐渡の学力について</li> <li>二学期制について</li> </ul> <p>(2) 教員の資質に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育は国の将来、佐渡においては佐渡の将来を左右する。情熱あふれ</li> </ul>	羽入高行

	質 問 事 項	質 問 者
15	<p>る教育者を育成するシステムになっているか</p> <p>子供達は夢・希望を持っているか（子供による事件の背景には夢や希望がないのでは）</p> <p>道徳・礼儀は正しく教えているか。教師は尊敬されているか</p> <p>(3) 不登校について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校及び高校生の不登校の実態と対策を伺う</li> </ul> <p>(4) 育英奨学金について</p> <p>佐渡市育英奨学基金を持つ考えはないか</p> <p>相川奨学基金の取扱いについて</p> <p>人材育成基金の取扱いについて</p>	羽 入 高 行
16	<p>1 離島特区について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特区の指定は具体的な対象が必要である。例えばエネルギー特区といったものを目指して、バイオマス・風力・太陽光・波力等を活用した循環型社会を目指すべきである</li> </ul> <p>2 ユネスコ世界遺産資産について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動の道筋が明らかでない。まず島内にある推進団体の統一と、どのような形の文化遺産を目指すのか、島内合意を得て推進すべきである</li> </ul> <p>3 観光振興について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区ごとの観光協会の連合体である今の観光協会では、一元化した宣伝・誘客ができない。観光協会長でもある市長のリーダーシップでまず統一。そこから新しい道を拓くべきである</li> </ul> <p>4 伝統文化の保護育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化財の散逸が懸念されている。博物館を強化して保護を図るべきである。文化振興財団を設置して、民の力を活用して活動を強化することが必要である</li> </ul> <p>5 農業振興について</p> <p>(1) 地産地消といわれながら、地場産のものが流通ルートに乗らない。佐渡市場では、地場産は10%でしかない。生産体制の確立が急務である</p> <p>(2) 畜産では、解体施設がないために、島内産を流通に乗せられない。早急な対応が求められている</p> <p>(3) 国営・県営土地改良事業は、平成18年度より一部用水借用開始となるが計画変更による再同意で蹉跎が生じては宝の持ち腐れとなる。対応に万全を期すべきである</p>	渡 邊 庚 二
17	<p>1 佐渡市の現状認識と予測について</p> <p>(1) 行財政の見込みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5年後・10年後の財政規模</li> </ul> <p>(2) 人口推移について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適正人口は、目標人口は</li> </ul> <p>(3) 佐渡市内の経済の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐渡の市内の総合生産高は、業種別順位、構成率は</li> </ul> <p>2 産業について</p>	稲 辺 茂 樹

	質 問 事 項	質 問 者
17	<p>(1) 観光産業の再生の施策は 観光資源について 観光インフォメーションのあり方について</p> <p>(2) 産業育成と振興策について 企業家育成 ブランド化への実践的取組みについて トキ放鳥と周辺地域農業者への影響とその施策について</p> <p>3 教育について</p> <p>(1) 全国標準診断的学力検査の結果について ・ その結果とそれに基づく問題点と具体的施策は。創造性に富んだたくましさを持たせる教育とは</p> <p>(2) A L T 英語教育について 共通語としての英語教育に対する必要性和認識は 17年度のカリキュラムは</p>	稲 辺 茂 樹
18	<p>高齢者（弱者）福祉施策について</p> <p>(1) 在宅介護施策は万全か 市の高齢者（弱者）介護施策は国県か、市民を向くのか 市の在宅介護施策の現況は市民の声に込えているか</p> <p>ア ヘルパー等の現況と人的配置は ・ 地区組に資格者一人は必要では、そのためにも市内で講習会を随時開催を ・ 福祉の声かけ隣組制度を呼びかけては</p> <p>イ 在宅を補完する施設は ・ デイサービスの現況と今後の見通し 今後の在宅を支える施策は。また、新市建設計画の介護施設は進むのか。佐渡の施設定数は県との協議が必要か。福祉介護特区は考えているか。いま10年先を進む高齢化率、地域の環境を県に訴えているのか。今後在宅介護重視の施策を進めるのか。</p> <p>(2) 老い痴呆予防対策は ・ 老い痴呆予防対策として相川・小木地区実施の保健事業 内容・状況・今後の推進は 全市に拡大しては</p> <p>(3) 介護保険制度について ・ 本格見直し期であるが、どのように想定し柱は何か。市民にとって見直し制度は歓迎されるのか ・ 高齢者介護に対する民意を政治の執行者として市長はどう込えるのか</p>	金 子 克 己
19	<p>1 行財政改革について</p> <p>(1) 人件費の適正化対策を問う</p> <p>(2) 企業（及び起業）誘致や観光での誘客、そして農家所得向上のための専門グループ（課又は室）の創設が必要</p>	近 藤 和 義

	質 問 事 項	質 問 者
19	2 中国等へ佐渡米の輸出をすべき 3 ドクターカー運行により救命率の向上を図るべき 4 市営施設のCO <sub>2</sub> 削減は急務	近藤和義